

CatOS が稼働している Catalyst 4500/4000 シリーズ スイッチ上の Catalyst Web インターフェイスのイネーブル化

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[Webインターフェイスソフトウェアがあることを確認する](#)

[ソフトウェアを Flash にダウンロードしてブートイメージをアップグレードする方法](#)

[TFTPによるブートイメージアップグレードの例](#)

[HTTP サーバの設定](#)

[HTTPサーバを有効にする](#)

[HTTPポートの設定](#)

[HTTPサーバ情報を表示する方法](#)

[CWIバージョン番号を表示する方法](#)

[スイッチへの接続](#)

[要約](#)

[関連情報](#)

概要

Catalyst OS (CatOS) ソフトウェアを実行する Cisco Catalyst 4500/4000 シリーズ スイッチは、Web ベースの管理をサポートしています。Catalyst Web インターフェイス (CWI) は、このタイプの管理を可能にする Web ブラウザ ベースのツールです。このツールは、Catalyst 4500/4000 シリーズ スイッチの全製品に使用できます。デフォルトでは、フラッシュ メモリに個別の CWI ソフトウェア イメージがありません。このソフトウェア イメージは個別にインストールする必要があります。このドキュメントでは、Catalyst 4500/4000 シリーズ スイッチに CWI 機能をインストールして設定する手順について説明します。また、クライアントで CWI にアクセスするためのスイッチとブラウザの要件および手順についても説明します。

注 : Cisco IOS®システムソフトウェアが稼働するCatalyst 4500/4000シリーズスイッチでは、現時点ではWebインターフェイスはサポートされていません。

前提条件

要件

このセクションでは、CWIを使用する際にサポートされるすべてのハードウェアとソフトウェアのバージョンを示します。

- **プラットフォーム**Catalyst 4500/4000シリーズSupervisor Engine ICatalyst 4500/4000シリーズSupervisor Engine IICatalyst 2948G、2980G、および4912G
- **Web ブラウザ**Internet Explorerバージョン5.0以降Netscape Navigator、バージョン4.61以降
注：実行するCiscoViewのバージョンに基づいて、次のJavaプラグイン(JPI)のいずれかをクライアントにインストールする必要があります。CiscoView 5.4(2) ~ 5.5(3):JPI 1.2.2を使用します。CiscoView 5.5(4)以降：JPI 1.3を使用します。
- **メモリ要件DRAM**:HTTPサーバに大量のメモリは必要ありません。使用状況とパフォーマンスへの影響は、同時HTTPセッションの数によって異なります。スイッチは、最大3つの同時HTTPセッションをサポートします。**フラッシュ**：スイッチイメージに加えて、Catalyst CiscoViewファイルには最大3.5 MBが必要です。スイッチイメージに加えて、HTTPサーバには40 KBが必要です。**NVRAM**:CWIに相当な量は必要ありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Catalyst 4000
- CatOS 5.5(8)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

このセクションでは、CWIの概要について説明します。CWIを使用して、Catalyst 4500/4000シリーズスイッチを設定できます。このツールの構成要素は次のとおりです。

- クライアントで実行されるCatalyst CiscoViewという名前のGUI
- スイッチ上で稼働するHTTPサーバ

CiscoViewイメージはCatOSイメージに統合されていません。ブート可能なイメージに加えて、CiscoViewイメージをダウンロードし、フラッシュファイルシステムにコピーする必要があります。

通常のイメージとCiscoViewイメージの両方で、同様の命名規則が使用されます。ただし、CiscoViewイメージには、イメージを区別するためにイメージ名に「cv」が含まれています。たとえば、バージョン5.5.8イメージの名前はcat4000.5-5-8.binですが、CWIイメージの名前はcat4000-cv.5-5-8.binです。

注：CiscoViewイメージは、すべてのシステムイメージリリースでリリースされるわけではありません。システムイメージと同じリリーストレインにあるCiscoViewイメージを使用します。たとえば、システムイメージが6.3.xの場合は、CiscoViewイメージ6.3(2a)を使用します。6.3(2a)イ

イメージは、6.3ソフトウェアリリーストレインの最新のCiscoViewイメージです。

CWIは、スイッチをリアルタイムでグラフィカルに表示します。CWIには、次のような詳細も表示されます。

- ポートの状態
- モジュールステータス
- シャーシタイプ
- Modules

CWIはHTTPを使用して、サーバからクライアントにCiscoViewをダウンロードします。デフォルト状態では、HTTPサーバは無効になっています。CWIを有効にするには、HTTPサーバを有効にする必要があります。HTTPサーバを有効にすると、サーバはデフォルトでポート番号80の要求をリッスンします。TCP/IPポート番号は、任意のポート番号に1から65,535に変更できます。

ダウンロードが成功すると、CiscoViewが開き、ブラウザにスイッチ情報が表示されます。CWIは、Simple Network Management Protocol (SNMP ; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 要求を使用して、この情報をスイッチから取得します。

Webインターフェイスソフトウェアがあることを確認する

CWI機能を有効にするには、ブートイメージと別個のCiscoViewイメージの両方がフラッシュメモリに存在している必要があります。

注：ブートイメージとCiscoViewイメージの両方に同じソフトウェアコードバージョンを使用してください。

1. 両方のイメージがフラッシュファイルシステムに存在する領域があることを確認します。 **dir bootflash: コマンドを発行し、コマンドを発行します。** 以下が一例です。

```
cat4000 (enable) dir bootflash:
-#- -length- -----date/time----- name
  1  3651336 May 16 2001 14:30:39 cat4000.5-5-8.bin
  2  2580656 Oct 09 2001 11:22:20 cat4000-cv.5-5-8.bin
```

```
9365320 bytes available (6232248 bytes used)
cat4000 (enable)
```

2. このドキュメントの該当するセクションに進みます。両方のイメージがブートフラッシュにない場合は、[Download Software to Flash and Upgrade the Boot Image](#)に移動してください。両方のイメージが存在する場合は、[Configure the HTTP Server](#)に移動してください。注：システムファイルの使用方法の詳細については、「フラッシュファイルシステムの[操作](#)」を参照してください。

ソフトウェアをFlashにダウンロードしてブートイメージをアップグレードする方法

別のCiscoViewイメージがブートフラッシュにない場合は、スイッチのフラッシュファイルシステムにイメージをコピーします。次の2つのオプションのいずれかを選択します。

- 同じバージョンの対応するブートイメージがすでに存在する場合は、CiscoViewイメージのみをダウンロードします。このセクションの手順のステップ8に進みます。または
- 対応するブートイメージがない場合は、ブートイメージと対応するCiscoViewイメージの両方

をダウンロードします。このセクションの手順のステップ1に進みます。

1. [Software Download - Cisco Catalyst 4500/4000 CatOS System Software](#) (登録ユーザ専用)からイメージファイルをダウンロードします。
2. ブートイメージを任意のTFTPサーバにコピーします。ワークステーションの適切なTFTPディレクトリにブートイメージファイルを配置します。注：TFTPサーバをダウンロードします。使用可能なTFTPサーバが多数あります。インターネット検索エンジンで「tftp server」を検索します。シスコでは、特定のTFTP実装を特に推奨していません。
3. コンソールポートまたはTelnetセッションを介してスイッチにログインします。Telnetでログインすると、スイッチをリセットして新しいソフトウェアを実行すると、Telnetセッションが切断されます。
4. TFTPサーバからソフトウェア・イメージをダウンロードするには、`copy tftp flash`コマンドを発行します。プロンプトで、TFTPサーバのIPアドレスまたはホスト名と、ダウンロードするファイルの名前を入力します。プロンプトが表示されたら、コピー先のフラッシュデバイスとして「bootflash」を使用します。その後、ファイルをデフォルト名にコピーするか、コピー先のファイル名を変更できます。スイッチがTFTPサーバからイメージファイルをダウンロードし、イメージがブートフラッシュにコピーされます。
5. `set boot system flash bootflash:filename prepend`コマンドを使用して、スイッチのリセット時に新しいイメージがブートするようにBOOT環境変数を変更します。コマンド構文で、ダウンロードしたイメージのファイル名を指定します。注：この手順は、CiscoViewイメージではなく、ブータブルイメージでのみ必要です。CiscoViewイメージはブータブルイメージではありません。
6. `reset system`コマンドを発行して、スイッチをリセットします。Telnetを使用してスイッチに接続している場合、この操作によってTelnetセッションが切断されます。
7. 再起動後、`show version`コマンドを発行して、スイッチのソフトウェアのバージョンを確認します。
8. CiscoViewイメージファイルをワークステーションの適切なTFTPディレクトリにコピーします。
9. コンソールポートまたはTelnetセッションを介してスイッチにログインします。Telnetでログインすると、スイッチをリセットして新しいソフトウェアを実行すると、Telnetセッションが切断されます。
10. `copy tftp flash`コマンドを発行して、TFTPサーバからCiscoViewイメージをダウンロードします。プロンプトで、TFTPサーバのIPアドレスまたはホスト名と、ダウンロードするファイルの名前を入力します。プロンプトが表示されたら、コピー先のフラッシュデバイスとして「bootflash」を使用します。その後、ファイルをデフォルト名にコピーするか、コピー先のファイル名を変更できます。スイッチがTFTPサーバからCiscoViewイメージファイルをダウンロードし、イメージがブートフラッシュにコピーされます。
11. `dir bootflash:` コマンドを発行しますCiscoViewイメージが正常にダウンロードされたことを確認します。

```
cat4000 (enable) dir bootflash:
-#- -length- -----date/time----- name
  1  3651336 May 16 2001 14:30:39 cat4000.5-5-8.bin
  2  2580656 Oct 09 2001 11:22:20 cat4000-cv.5-5-8.bin

9365320 bytes available (6232248 bytes used)
cat4000 (enable)
```

[TFTPによるブートイメージアップグレードの例](#)


```
DRAM Address Test .....Passed
Clearing DRAM .....Done
EARL++ .....Present
EARL RAM Test .....Passed
EARL Serial Prom Test .....Passed
Level2 Cache .....Present
Level2 Cache test.....Passed
```

Boot image: bootflash:cat4000.6-1-1.bin

Cisco Systems Console

Enter password:

```
07/21/2000,13:52:51:SYS-5:Module 1 is online
07/21/2000,13:53:11:SYS-5:Module 4 is online
07/21/2000,13:53:11:SYS-5:Module 5 is online
07/21/2000,13:53:14:PAGP-5:Port 1/1 joined bridge port 1/1.
07/21/2000,13:53:14:PAGP-5:Port 1/2 joined bridge port 1/2.
07/21/2000,13:53:40:SYS-5:Module 2 is online
07/21/2000,13:53:45:SYS-5:Module 3 is online
```

Console> **show version 1**

Mod	Port	Model	Serial #	Versions
1	0	WS-X4012	JAB03130104	Hw : 1.5 Gsp: 6.1(1.4) Nmp: 6.1(1)

Console>

HTTP サーバの設定

CWIイメージがブートフラッシュにあることを確認したら、スイッチでHTTPサーバを設定できます。このタスクには、次のサブタスクがあります。

- [HTTPサーバを有効にする](#)
- [HTTPポートの設定](#)
- [HTTPサーバ情報を表示する方法](#)
- [CWIバージョン番号を表示する方法](#)

HTTPサーバを有効にする

デフォルト状態では、HTTPサーバはスイッチで無効になっています。HTTPサーバを有効または無効にするには、特権モードで次のコマンドを発行します。

```
set ip http server {enable | disable}
```

次の例では、サーバを有効にします。

```
Console> (enable) set ip http server enable
```

HTTP server is enabled on the system.

次の例では、サーバを無効にします。

```
Console> (enable) set ip http server disable
```

HTTP server is disabled on the system.

[HTTPポートの設定](#)

TCP/IPポート80のデフォルト設定を変更しない限り、HTTPポートを設定する必要はありません。HTTPサーバのポート番号を設定するには、特権モードで次のコマンドを発行します。

```
set ip http port {port_number | default}
```

次の例では、デフォルトの80以外のTCPポート番号を設定しています。

注：この例では、TCPポート番号2398を使用しています。

```
Console> (enable) set ip http port 2398
```

HTTP TCP port number set to 2398.

次の例では、TCPポート番号をデフォルトの80に設定しています。

```
Console> (enable) set ip http port default
```

HTTP TCP port number set to 80.

[HTTPサーバ情報を表示する方法](#)

HTTPサーバ情報を表示するには、通常モードで次のコマンドを発行します。

```
show ip http
```

この例では、HTTPサーバの情報を表示する方法を示します。この例では、CWI機能がサポートされていることも示されています。

```
cat4000 (enable) show ip http
```

HTTP Information

HTTP server: enabled

HTTP port: 80

Web Interface: Supported

Web Interface version(s):

Engine: 5.2 ADP device: Cat4000 ADP Version: 1.4 ADK: 37a

HTTP active sessions: 0

[CWIバージョン番号を表示する方法](#)

CWIバージョン番号を表示するには、通常モードで次のコマンドを発行します。

show version

次の例は、CWIバージョン番号を表示します。

```
Console> show version
cat4000 (enable) show version
WS-C4006 Software, Version NmpSW: 5.5(8)
Copyright (c) 1995-2001 by Cisco Systems, Inc.
NMP S/W compiled on May 15 2001, 15:51:27
GSP S/W compiled on May 15 2001, 14:14:47
System Bootstrap Version: 5.4(1)
Hardware Version: 1.2 Model: WS-C4006 Serial #: JAB043300MG
```

Mod	Port	Model	Serial #	Versions
1	2	WS-X4013	JAB043300MG	Hw : 1.2 Gsp: 5.5(8.0) Nmp: 5.5(8)
2	34	WS-X4232-GB-RJ	JAE042921NV	Hw : 2.3

Module	DRAM			FLASH			NVRAM		
	Total	Used	Free	Total	Used	Free	Total	Used	Free
1	65536K	30015K	35521K	16384K	7239K	9145K	480K	165K	315K

Uptime is 0 day, 4 hours, 40 minutes

スイッチへの接続

スイッチに接続するには、「要件」セクションにリストされているサポートWebブラウザのいずれかを使用する**必要**があります。

注：スイッチに接続すると、クライアントで実行されているCiscoViewという名前のGUIプログラムをダウンロードできます。

1. WebブラウザのURLフィールドにスイッチアドレスを入力します。たとえば、Netscape NavigatorまたはInternet Explorerを開き、**http://172.50.10.20**と入力します。次に例を示しま

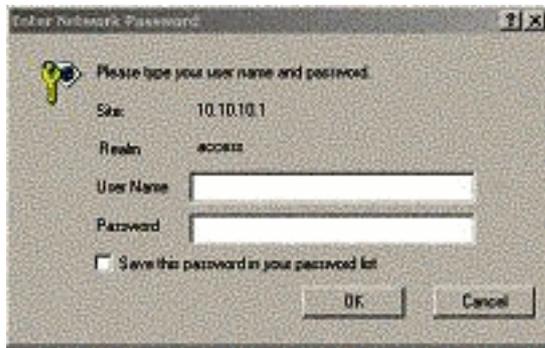
す。



この例では、172.50.10.20がスイッチのIPアドレスです。デフォルトのポート80からポートを変更した場合は、この変更を反映するようにURL文字列を変更する必要があります。たとえば、**http://172.50.10.20:8080**はポート8080を使用します。以下が一例です。



スイッチに接続すると、ログインダイアログボックスが表示され、ユーザ名とパスワードの入力を



求められます。

- ユーザ名とパスワードを入力します。スイッチのデフォルトのログイン認証を変更していない場合は、イネーブルモードパスワードを使用し、[User Name]フィールドを空白のままにします。認証の設定方法の詳細については、『[Catalyst 6500シリーズ、4500シリーズ、および5000ファミリスイッチWebインターフェイスインストールおよび設定ノート](#)』の「[認証ログインの設定](#)」セクションを参照してください。スイッチのホームページがブラウザに表示されます。
- [Switch Manager]をクリックして、CiscoViewクライアントソフトウェアをダウンロードします。数分後に、現在のJavaセッションを許可するダイアログボックスが表示されます。



- 続行するには、[Grant this session]または[Grant always]をクリックしてください。この時点でJPIがフリーズする場合は、バージョン1.3.1へのJPIアップデートが必要になる場合があります。プラグインをダウンロードするには、[Sun Microsystems Java 2 Platform, Enterprise Edition \(J2EE\) 1.3](#)を参照してください。[CiscoView authentication]ダイアログボックスが表

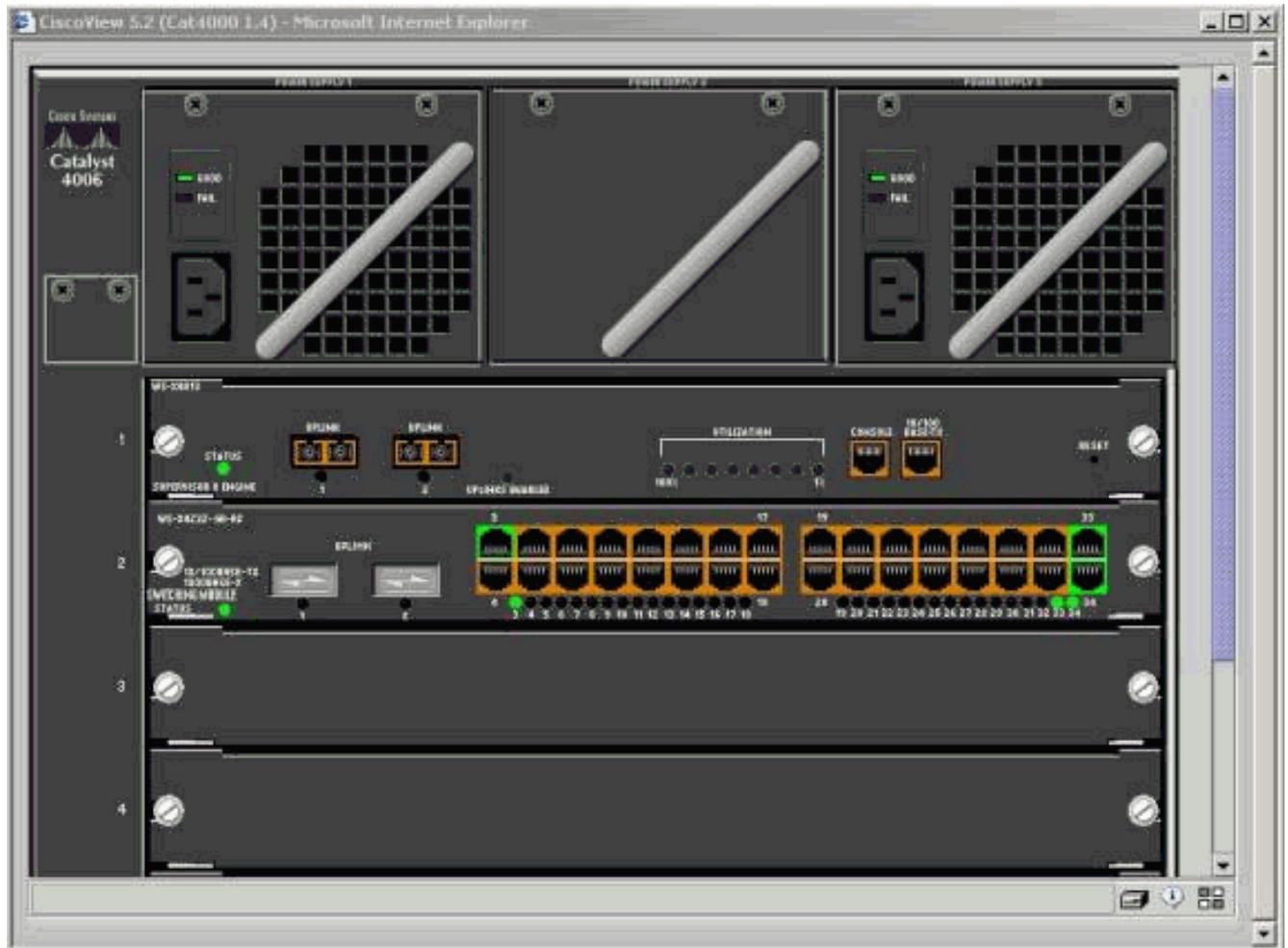


示されます。

- デフォルトの認証を使用する場合は、ユーザ名なしでイネーブルパスワードを入力するか、設定した認証情報を入力します。コミュニティ文字列ダイアログボックスが表示されます。



6. [OK]をクリックして、指定されたデフォルトの文字列を受け入れるか、[Read Community]フィールドと[Write Community]フィールドに新しい値を入力して[OK]をクリックします。これらの文字列名を変更した場合のみ、指定された文字列を変更してください。この操作により、CiscoViewイメージのダウンロードとログインが完了します。スイッチが視覚的に表示されます。



7. 特定のコンポーネントをクリックして、現在の設定を表示するか、コンポーネントを設定します。

要約

CiscoViewインターフェイスは、CiscoView 5.xで使用可能な全機能のサブセットです。CiscoViewでは、CPUまたはメモリの使用状況を監視できません。ただし、CiscoViewでは、どのポートが稼働しているか、およびどのポートが稼働していないかを確認できます。CiscoViewには、多くの基本的なポートおよびVLAN管理タスクも用意されています。

CiscoViewの主な目的は、CiscoView 5.xネットワーク管理システムを購入したくない顧客に対して、スイッチを設定するためのGUIを提供することです。CiscoViewを使用してCatalystスイッチを設定する方法の詳細については、『[CiscoView 5.3の使用](#)』の「[デバイスの設定](#)」セクションを参照してください。

関連情報

- [ツールとリソース](#)
- [LAN 製品に関するサポート ページ](#)

- [LAN スイッチングに関するサポート ページ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)